

イヤールラウンド開始で活気づく鳥取中部のお勧め、倉吉コースを歩く



①玉川沿いに並ぶ白壁土蔵群は江戸・明治期に立てられたものが多く、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている ②国登録有形文化財の豊田家住宅に展示されている千歯こき。この農具は倉吉で生み出された ③SL機関車が展示された倉吉線鉄道記念館 ④江戸時代から続く高田酒造の店頭にたたずむ狸 ⑤100年前から変わらない倉吉の景色 ⑥古い造り酒屋や醤油屋の蔵が軒を連ねる

谷川ジロー氏が描くノスタルジイの町

倉吉商工会議所が取り組む県中部の広域観光振興事業として、『いつでも』『誰でも』ウォーキングを楽しめるイヤールラウンドコース（通年ウォーキングコース）10本がこの4月1日④からオープンした。

「海、山、湖……鳥取には日本の原点ともいえる美しい風景が揃っています。みなさんに満足していただけるよう、各コースにそれぞれ見どころを用意しました」と、コース作りを担当した鳥取県ウォーキング協会理事 兼ウォーキングクラブ未来・会長の岩本龍司さん。

中でも今回薦めてもらったのは、鳥取出身の漫画家・谷川ジローさんが倉吉を舞台にして描いた名作『遙かな町へ』（小学館）にちなんで作られた『遙かなまち倉吉を訪ねて』コース（12km）。赤瓦、白壁土蔵群周辺から旧アーケード街にかけての街並みには、江戸から明治、大正、昭和の古い建物が当時のままに軒を連ね、ミシンや履物など各時代

をしのばせる品々も店頭に並ぶ。また、かつて伊能忠敬が街道を実測した八橋往来も、当時の道筋をいまなお残している。

まるで町がそのままレトロのテーマパークのよう。なんともいえず懐かしい風景と、ゆったりした空気が楽しめ、ウォーキングしながらタイムスリップしたような感覚を味わえる。

ヨーロッパでも絶賛されたこの谷川ジロー氏の『遙かな町へ』を、倉吉を舞台に映画化するべく、現在『未来』ではプロジェクトを推進中だ。100年変わらない風景の懐かしい町に、近々スクリーンの中でも会うことができるかもしれない。

今月の案内人



●岩本龍司さん
日本ウォーキング協会 主席指導員、鳥取県ウォーキング協会 理事、ウォーキングクラブ未来会長を兼任。イヤールラウンドは丁寧にコースを回り、じっくり選定した。